

お誕生日表の作成と鑑賞による造形の学び

A Study on the Creation and Appreciation of Illustrated Birthday Calendars

(2014年3月31日受理)

上 浦 千津子

Chizuko Kamiura

Key words : 壁面構成, 保育, 幼児教育, お誕生日表, 鑑賞

要 旨

本研究では、国内外の保育および幼児教育の場において環境構成の一環として作成されている「お誕生日表」の制作にむけ、保育士および幼稚園教諭に求められる造形力および表現に必要な基本的な概念について考察を行うものである。そして、将来、保育士および幼児教育の指導者となることを目指す学生が、有意義かつ継続的に造形表現について学ぶ方途について学習プログラムを構築・実践し、今後の課題について考察を行う。

具体的には、学習者の絵画への忌避感についてアンケート調査を行い造形に関する苦手意識を把握するとともに、「お誕生日表」の作成にむけたワークシートの開発を行い、学習者の状況に応じて表現の具体化と具体化された表現の分析、考察、鑑賞を通して、さらに造形への学びにつなげる学習を行った。

は じ め に

我が国では、古来より四季折々の風物を愛で、生活の中で培われたイベントを楽しむ風習があった。諸外国においても、自然を崇拝する民族の文化に係る歴史は新しくはない。また、自然と共存し、命の大切さを尊ぶための学びは、様々な角度から求められていよう。美術教育の場では、「美術を学ぶ」或いは、「美術で学ぶ」どちらの視点においても、人々の生活の習いや自然に学ぶことは、重要な位置を占めている。なぜなら、我々は、先人の残した文化を噛みしめて、この時を生きているのであり、これからの未来を生きる上で支えとなるものも、これまで生きてきた軌跡に依存する。その中で占める時間感覚は、季節感やイベント、生活との関連で想起されることが多いと思われる。なお、小学校学習指導要領や保育所保育指針、幼稚園教育要領においても、生活との関連を考慮して教育や保育が行われることが記されている。

我々が社会生活を営むということは、社会と接することである限り、近接する「生活」は、社会の窓口ともいえよう。日々の生活の変化に目を向け、四季を感じることは、白居易の詩歌を受けての清少納言の枕草子からも読み取ることができる。「花鳥風月」は、詩歌や日本画の題材になるだけではなく、その季節ならではの草木や渡り鳥、天候、変化する月齢が、無常観やはかなさを感じさせる生あるものの象徴の一つでもあり、生ける者にとって共通の時と場を過ごす共感のキーワードともいえる。また、子どもの時期に体験する季節毎のイベントは、後に大人となってから貴重な記憶として残る。

本研究では、保育および幼児教育の場において環境構成の一環として作成されている「お誕生日表」の制作にむけ、子どもの教育者に求められる造形力および表現に必要な基本的な概念について考察を行う。そして、将来、保育士および幼児教育の指導者となることを目指す学生が、有意義かつ継続的に造形表現について学ぶ方途につ

いて学習プログラムを構築・実践し、今後の課題について考察を行うものである。

1. 教員養成系学部学生の造形表現に関わる状況

本研究に先立ち、教員養成系学部学生の造形表現に関わる状況について考察を行う。

1-1 今日の青年をとりまく美術教育

一般的に、造形発達（主に描画の発達）の段階として青年期は、写実期を終えた完成期と理解されている。ローエンフェルドは「決定の時期」と位置付け、「創作活動に見られる青年期の危機」と特徴付けており、「この危機は一つの発達段階からもう一つの発達段階へ、すなわち、児童期から成熟期へ移る際の困難性と関連する」ものとしており、青年期以降の生き方を決定する重要な時期であるとの捉え方をしている¹⁾。青年期の身体的・心理的成長との連関で青年期の美術を「危機」と捉えたローエンフェルドの卓見は、今日の美術教育の底流となっている。

また、この期の造形上の発達課題は見えにくく、むしろ個別的に捉えた方が理解しやすい。写実期以前の表現力に退行していたり、写実期の課題が達成されていなかったり、また、個性的な表現を強く求めていたり、専門的な「大人の美術」を志向していたりと、この期には多様な造形課題が併存しているのが特徴である²⁾。

1-2 保育士および初等教育教員に求められる造形力

一方、保育士および幼稚園教諭、小学校教諭には、子どもたちが、楽しく造形に取り組めるよう、また、興味をもって身の回りの自然や造形を観察できるよう、豊かな感性や知識、技術を持つことが求められる。多様な子どもの表現に対して、受け入れ、理解し、さらに有意義な表現活動、鑑賞活動、コミュニケーション活動となるよう導く存在となるには、保育の支援者、初等教育教員として、基礎的な造形能力および多様な状況に対応した造形能力を身につける必要がある。

つまりは、具体的な表現の模倣だけではなく、その本質を理解し、造形の楽しさや美しさを理解し、様々な形に翻訳しなおせるような力が求められてはいないだろうか。楽しい時間を過ごすことは大切であるが、学ばべき

内容や目的を理解し、生涯にわたって美術を愛好する礎ともなる子どもの時期を支える存在となる自覚をもつことが望まれよう。つまりは、美しい木々を見て、なぜ、美しいとすることができるのかを考える力、或いは、言葉にする力を将来の保育者および教育者は必要とされていよう。美しいと感じ、心の琴線に触れたのは葉のつき方や、葉の形状といった形体の面白さなのか、色の記憶なのか、連想される空気の清々しさなのか、描く際に体験する混色の妙なのか。子どもが描いた絵を心から理解し、寄り添うためにも、また、理解を示すためにも、絵を描いた時の子どものうれしさ、辛さに寄り添うには、保育者や教育者自身も同様の経験を思い起こす必要があろう。実際のところ、自然の美しさは、子どものころに描いた記憶をたどることで美しいと感じてはいないだろうか。グリーンを見ながら頭の中で、絵の具を溶き、万葉集の一節を想起し、小説や詩のフレーズや音、映像を連想したりすることもある。

なお、造形に伴って描画力や集中力、準備する能力、発見する力、まとめる力、共感する力、子どもたちを説得するコミュニケーション力、モラルや計画性も必要となる。

1-3 絵に対するアンケートからの考察

保育者あるいは幼稚園・小学校教諭免許の取得を目指す大学一年生90人にアンケートをとったところ、次のような結果であった。(2013年大学一年生対象)

Q 絵を描くにあたって、難しいと思うのは、どんなことですか？ <回答>（複数回答可）

形のとりかた（60人）

アイデア（29人）

色（17人）

根気（13人）

描き方（44人）

構図（34人）

テーマの選定（目的の解釈）（17人）

その他（5人）

無記入（3人）

Q デッサン（素描）の経験はどのくらいですか？

得意（2人）

ふつう（8人）

少し苦手 (15人)

苦手 (41人)

未経験 (23人)

無記入 (1人)

ここで、デッサンが得意であると回答した学生は、たった二人であり、それぞれ、絵に対しては、一人は「アイデアと色」、もう一人は「アイデアと描き方」とであると回答している。なお、「ひとこと」としての自由記述では、次のような回答があった(抜粋)。

工作は好きだけど絵は嫌いです／苦手だけど、頑張ります／塗り絵は好きです／絵心がありません／不器用です／苦手ですが、図画工作は好きです／楽しみたい／うまくなりたい／絵を描くことが好きではない／絵を描くことは好きですが、自分の思うようになかなか描けないです／一緒に絵を描きましょう

この中で、「絵心」というワードが使われているが、造形に関する授業中において、これまでしばしば耳にしてきた。そもそも「絵心」とは、絵を描く技量の他に、絵を描きたいと思う「心」のことも意味としてあるという。学生たちは、前者の意味で用いていると思われるが、だとすれば、写実的な絵を描く技量を高めるための手立てが必要であろうし、後者だとすれば、興味を引く題材や内容を準備する必要があるだろう。なお、「うまくなりたい」、「頑張ります」という意見の多さから、造形を学習しようという意欲の高さや真摯な態度がみてとることができ、今回調査したうち約6割の学生が「形のとりかた」に悩んでいることが伺える。とりわけ顕著だったのが、デッサンについて未経験であると回答した学生の多くは、絵画についてのすべての項目が「難しい」と回答していたことである。経験が不足すると授業での造形や美術について忌避感を感じるということは、現代も継続している課題であると思われる。また、教員と一緒に絵を描きたいという要望は、造形に対する意識を共有したいという学生の願いを反映しているものでもあろう。一方で、デッサンが得意な学生は、アイデアの生成に苦手意識がある可能性があり、学生のこれまでの経験によって、造形に対する意識の差異が生じているのではないかと思われた。

そこで、各自が得意な分野を発揮しつつ、幼児教育の

場で生かすことのできる楽しい造形の学習プログラムを考案すること、および、表現の具体化と抽象化を往還する概念形成の必要性、表現技能の向上・獲得によって表現に対する苦手意識を払拭することが重要であると感じられた。

次に、保育園・幼稚園で行われる壁面構成の一つである「お誕生日表」の作成を手掛かりに、学生自らそれらを評価・分析し、改めて抽象的なデザイン表現を行う学習について考案した。

2 造形表現の学習プログラムおよび実践

先に述べた図1の「造形に求められる基本概念」に関連して、金子賢治は、日本経済新聞「近代陶芸家くらべ」において、「抽象と写実」に日本らしさがあることを尾形乾山と初代宮川香山の作品を手掛かりに述べている³⁾。金子によると、ゴッホに影響を与えたとされるジャポニズムの源流は、乾山のシンプルに抽象化された町衆らしいプライドに満ちた作風と香山の「毒々しいまでにキッチュな表現」の異なる作風が関わったという³⁾。彼らを代表とした明治期の芸術家が「日本文化」の情緒性を顕現化したことで形式を超えた感動を欧米にもたらし、我が国の文化が独自なものとして示されたことは、人が造形から、文化の風土を感じようとする意識が伺える。四季折々の風物を愛で、生活上のイベントを楽しむ、何でもない営みをベースにした表現は、国境を越えて人の心に届くのではないだろうか。

そもそも、江戸時代に発達した錦絵は、簡略な暦入りの絵である「絵暦」の交換会が、版画技法の開発を促し生まれたものだといわれる⁴⁾。

次に述べる「お誕生日表」は、現在、保育園および幼稚園で保育士及び幼稚園教諭によって作成され掲示されている園児たちの誕生日を祝って飾り付けられる壁面構成の一種であり、季節毎のイベントを想起させる今日的な絵暦でもありと思われる。

2-1 お誕生日表とは

現在、お誕生日表は、園児たちの誕生日を誕生月の風物をポップにデザイン化したりするなどして楽しく教室を彩る掲示物の一つとなっている。一枚の画用紙でひと月ごとに作成するというよりは、各保育園や幼稚園の教

室の状況に応じて、空いたスペースに園児や保護者、来園者等が楽しんで鑑賞することができるように配慮しつつ掲示される。なお、こうしたお誕生日表は欧米においても制作されている。

お誕生日に限らず、保育園、幼稚園の教室の壁面は、園児と保育士や幼稚園教諭が、ともに廃材を利用したりしながら季節のイメージに合う飾り付けを行っており、保育所保育指針に応じた保育の月刊誌等には、毎回、そのためのアイデアが掲載されている⁵⁾。また、今日、保育士を目指す学生からは、造形の中でもとりわけ壁面構成に関する内容を学びたいという声が聞こえる。日々の忙しい園生活の中、実習生として保育園・幼稚園に赴いた際、教室の飾り付けを任されることも少なくなく、やりがいがあり楽しい仕事でもあるという。

そこで、次のような学習プログラムを作成した。

2-2 学習プログラム

おおまかに、次のような流れで授業を行うこととした。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

①誕生日表の説明、見本の提示、作り方の工夫と課題
(実際に作られたもの・パワーポイントによる作品
写真の映像) …40分

②制作の班分けと誕生日の表の提示・・・15分

③アイデアの生成と準備、計画・・・30分

④制作にあたっての留意点の説明・・・5分

⑤グループに分かれての制作議論と制作・・・90分

⑥作品の展示と鑑賞

1. 各月のお誕生日カードの分析カードの記入グループ発表…45分

2. 任意に選んだ誕生日カードの色彩分析、形体分析カードの記入…20分

3. 四季についての抽象的な平面構成の作成…20分

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

なお、これらの学習を行う前に、アイデアスケッチをスムーズに行えるよう、基礎デッサンのトレーニングを行った。

2-3 実践

(実践について、時と場所、対象者について明確に銘記すべきところだが、個人情報保護の観点から、それらについての記述は避けることとする。)

*時期：2013年5月 教員養成系学部大学1年生および

科目等履修生90名

① お誕生日表の説明、見本の提示、作り方の工夫と

課題 (実際に作られたもの・パワーポイントによる
作品写真の映像) …40分

保育・幼児教育の場では、環境構成の授業が行われており、人的環境および物的環境の側面から幼児の健やかな成長を願って様々な活動を支えるための方法が講じられ演習もなされているが、大学に入学したての学生としては、まだ学習経験が乏しく、イメージも十分ではない。しかし、楽しく子どもたちと接したいという思いを持っており、色とりどりの壁面装飾には、十分興味をもっていると思われた。また、様々な素材の特性を生かして立体的な作品を作り、長きにわたっての展示に耐え園児の安全に配慮するよう、適切な接着方法を用いることについて理解を促した。また、遠目に見ても理解しやすい表現となることの利点と、具体的に作りこまなくてもある程度、省略した表現で、イメージとしてニュアンスを伝えることができるよう、デザインすることについての面白さが伝わったのではないと思われる。昨年度の学生の作品(写真1)では、糸を引くと回る風車や、フェルトと糸と綿で、柔らかい素材感を出すなど、具体的な制作方法が見て取ることが可能となった。なお、お誕生日表をより効果的に作るために、遠景から作りこむことや、形の重なりによって、空間が表現できることを理解するために、あらかじめ、一点透視図法および二点透視図法についての演習も取り入れた上で行った。

また、各月に行われるイベントについて、意見を出し合った。草木の表現では、季節によって色や質感が変化すること、登下校時に見かける用水路や空、森、町のイベント、雑貨屋のレイアウトなどに目を向けることや気づきなどについて話し合った。なお、保育園や幼稚園で、子どもたちと一緒に簡単な工作や描画を行い、展示物に生かす方法についても考えつつ制作方法を検討することが有意義であることを、例を示しつつ紹介を行った。例えば、絵の具での手形や、折り紙、切りそろえておいた色画用紙を組み合わせ、マジックで子どもに記入してもらいなどの方法を取り入れることなどである。

七夕飾りや雛祭り、絵馬に代表されるように、実際、我が国において、古来より行われてきた年中行事には、協同制作的な要素が数多く見受けられる。欧米のクリス

マスやハロウィンにおいても同様に、子どもたちが楽しみながら飾り付けや仮装を行われることから、多様な宗教観によるお誕生日表が構想できる。ただ、園によっては、一定の方向性があるところもあることが想定されるため、多様な価値観や表現力を身につけておくことが肝要かと思われる。

② 制作の班分けと誕生日の表の提示…15分

昨年は、学生の誕生月に分かれて、自分たちのお誕生日表を作成したが、そうすると、班によって人数にばらつきがでるため、本年度は、あらかじめ出席番号順に班わけを行い、二クラスに分かれて3～4人のグループでひと月のお誕生日表を作成することとした。なお、実際に学生の誕生月を発表しあい、模造紙に書きこみ、制作中、確認できるようにした。また、入学したての一年生同士が親睦をはかることができるよう配慮するため、誕生日については、本人に確認し、表中にデザインの一部として表現することとした。

③ アイデアの生成と準備、計画…30分

各自が、ワークシートに基づいてアイデアスケッチを行った。制作のための資料として、前年度及び前々年度の学生が制作したお誕生日表を教室に並べ、参考にできるようにするとともに、隣接する図書館において調べ学習を行い、インターネットを用いてアイデアの一助とすることも認めた。なお、授業時間内でアイデアスケッチが完成しない場合は、時間外において各自が調査し、次の授業時間において制作が進められるよう十分な準備を行っておくよう計画および段取りについて考え、ワークシートに記述することとした。

学生は、各月にあるイベントの詳細について興味をもち、どのようなモチーフを選定するか、また、どのような構図で、どのような素材で制作するかについて話し合っていた。

壁面構成計画書

番号 _____ 氏名 _____

_____ 月担当 (自分が構想する _____ 月のイメージ画 ↓)

_____ 月

を構成する要素:

気温:

行事:

植物:

該当する学生のフルネーム (ひらがなで) _____

《 班で作ることになった完成予想図 》

* 使用する素材と表現部位、表現技術、担当することになった自分の役割と計画、準備物などを書き込むこと。

《資料1. アイデアスケッチのワークシート》

④ 制作にあたっての留意点の説明…5分

制作にあたり、接着方法が安易にならないよう、針や糸を使ってみる提案や、のりしろを作ること、強度の限界について知っておくこと、子どもでも読みやすいよう、基本的にひらがなを用いること、できるだけ見やすい配色にして切って貼るという手段で丈夫に作成することなどを確認した。班のメンバーの誰もが何かの関わりを制作物に対して行ったことを、後日、鑑賞会で発表する段取りであることを伝え、より有意義な活動となるよう促した。

⑤ グループに分かれての制作議論と制作…180分

前回の授業において、アイデアを学生各自が提案しあい、一つのアイデアにまとめあげたものをベースに、実際に制作を行った。なお、制作が終わった班については、お誕生日表の成果と課題についてのワークシートを用いて制作状況を確認し、作品の魅力と改善点について見直すこととした。

そして、次の授業において、鑑賞会を行い、その際に、各班が制作状況や見どころ、改善点について発表することとした。

お誕生日表 学級番号 氏名

①紙検査が済のいろいろ
のりで貼る・・・のりしろづくりの肝要、切れ込みをいれる必要があることがある（試験に時々でる）。
十分なのりしろの確保が必要。
でんごんのりなどは物足でも簡単に使用できる。

ボンドで貼る・・・のりより強力だが、のりと同様に、十分な検査確保が必要。
乾くのに時間がかかる。多用すると、かえって検査に時間がかかる。
木工用ボンドは、木材同士の間接は優秀だが、その底は、くっつかないものもある。
ビニールボンドは、においが強い（脱脂、ワレタン（スポンジ）の検査は早くて完了）

ホッチキス・・・簡単に貼るが、強固であるので使用には注意が必要。

穴を空けて紐で固定する・・・重さのあるものは、重さに耐えられる支持体を利用してとめる。
うまく利用すると、しっかりとより安全である。

テープ類の使用・・・簡単に貼るが、重さに耐えられないことがある。

＜考えてみましょう＞
うまく貼れないときの対処法

①テープでしか貼れないのに、テープがない。

②木工用ボンドや、のりが乾かず、展示すると落ちる。

③一人でたくさん貼るところがあって、手で押さえきれない。

④のり筆、検査用やホッチキスを忘れた！どうしよう！

⑤穴やテープの痕を付けないように展示したい！どうしよう！

《資料2. 補足資料》

お誕生日表の作成 成果と課題 ※すべて書いてください

クラス 月担当 出席番号 氏名

1. 作成したお誕生日表で、良い（評価されるべき）と思ったところはどこですか？

①

②

③

2. お誕生日表を作成して、「〇〇しておけば良かった！」と思うことはどんなことで、どのようにすれば良かったと思いますか？

①

②

③

3. 自分が担当した箇所や生かされたアイデア、貢献した部分を教えてください。

4. お誕生日表を作成して、あなたはどのようなことを学びましたか？

①

②

③

5. 感想を教えてください。

《資料3. 成果と課題》

⑥ 作品の展示と鑑賞

出来上がった作品を教室に展示し、各月のお誕生日表

について、心地よさを感じる点や改善点といった全体的な感想と、色の効果と形の効果についてワークシートに書きこむこととした。

1. 各月のお誕生日カードの分析カードの記入とグループ発表…45分

お誕生日表 鑑賞シート① 学級番号 氏名

度	全体的な感想（こころよさ・改善点）	色の効果	形の効果
1月 度			
2月 度			
3月 度			
4月 度			
5月 度			
6月 度			
7月 度			
8月 度			
9月 度			
10月 度			
11月 度			
12月 度			

《資料4. 鑑賞シート》

発表時には、前回記入した「成果と課題」のワークシートを参考に、各班が発表を行った。その発表を聞き、出来上がった作品を鑑賞し、資料4の鑑賞シートを記入した。なお、次に、次の1から3の課題を行い鑑賞した作品から発想して平面構成を行った。

お誕生日表 鑑賞シート 観点別ワークシート 学級番号 氏名

み 貼られているお誕生日表を自由に一つ選び、観点別に分析してみましょう。

* 選択したお誕生日表は、(A・Bクラス)の(1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12)月曜のもの

(1) 使用されている色彩の割合を帯グラフにして表現してみましょう。
(色鉛筆などで彩色または色紙を貼ります。)

0% 50% 100%

(2) 使用されている素材をすべて書いてみましょう。

(4) 表現されている形・量・全体の中での割合についてイラストを用いて書いてみましょう。

(5) 用いられている表現技法すべてについて書きだしてみましょう。

《資料5. 鑑賞シート 観点別ワークシート》

1. 任意に選んだ誕生日カードの色彩分析, 形体分析カードの記入…20分

次に, 資料5の観点別ワークシートの記入を行い, 色とりどりのお誕生日表から発見できる色のバランスおよび形や技法について考えることとした。

2. 色鉛筆をもちいた四季についての抽象的な平面構成…20分

続いて, 春夏秋冬の平面構成を, 色鉛筆を用いて抽象的な線で画面を分割して描くこととした。「平面構成」という言葉自体, 初耳であるという学生もあったが, お誕生日表のイメージと自分が感じる四季のイメージを頼りに気楽に制作して良いことを伝え, 制作を行った。

3 ま と め

3-1 学習者の様子から

学生は, 概ね, 楽しんで制作を行っていたと思われる。

楽しい色の配色は, 人を楽しくさせる。また, 一見暗い色でも, 配色によって, 明るさを際立たせ, そうでなくとも豊かなイメージを喚起してくれる。一連の活動の中で, 手を動かし, 表現することの可能性の多様さに, 学生たちは気づきを得たのではないと思われる。また, 楽しい表現は, 見た人を明るい気持ちに誘うものであり, 大胆な表現は, 人に驚きを与える。協同制作は, 人と人とのコミュニケーションが必要となり, 一人ひとりの責任感が十分でない前に進まないが, 能力を補完しあい, より豊かな作品に仕上がる楽しさもある。一方で, 個人制作では, 個人が思ったとおりに制作できる良さがある。その両方の側面を補いつつ学習を進めることができたのではないと思われる。



《写真1. 例示に用いた昨年度の学生が制作したお誕生日表(一部)》



《写真2. 今回制作したお誕生日表(一部)》

「壁面構成」というと, 大学に入学したての学生にとっては, 聞きなれない言葉ではあろう。しかし, 子どもや保護者が見て不快に思われないような展示物を目指し, 子どもたちと協力しながら, 状況に応じて形と色または素材を組み合わせたり加工したりして制作することが少なくとも感覚としては, 理解できたのではないと思われる。そして実際に制作することで, 準備や計画を行うことの重要性や, 子どもの立場にたってイメージを広げていくことの大切さに触れることができたようである。



《写真3. 色鉛筆を用いた平面構成(一部)》

なお, 今回ワークシートの記入にあたって考えさせられたことの一つは, 文章およびイラストによる表現についてである。現代の学生たちは, メール等を使い慣れているためなのか, 完成度はともかくとして, 気持ちを文章やイラストで表現することに対して, それほど負担に

感じていないようである。授業出席者の中で、未提出者や白紙で提出する学生は皆無であった。また、細かな工作なども好んで行うことができる。写真4は、お誕生日表を作成後、立体加工について意識を高めるために行った紙の加工の課題作品である。細やかな作業となるが、目的の明確な「作業」そのものに対しては、前向きに取り組むことができる。

素材の加工についての基礎的な作業や、表現の多様性についての理解が進めば、造形に対する忌避感が、減少するのではないかと思われた。そのためには、発表を行う機会の設定や、友達同士で意見を出し合う場の導入、ボランティアや実習等で実際に子どもたちと触れ合いながら作品作りに取り組むなど、造形活動が実際に親しまれている現状を肌で感じ取り、学生一人ひとりが自己肯定感を持つことが重要なことであると考えられる。

自然の中で命の息吹を感じ、植物の栽培や動物の世話を通して感覚を拓いていく活動を子どもたちが行うのと同様に、大学生も実際に四季の移ろいを肌で感じ、様々な国の文化に触れ、造形の面白さを感じながら表現の方法を探り、学んでいくことが有意義であると思われる。



《写真4. 紙を用いた立体加工見本作り》

この実践においては、資料において提示したように、いくつかのワークシート（筆者作成）を用いた。簡単な記述をすることから、これまで学生が行ってきた造形活動について記憶を呼び戻し、様々な角度から表現について考察し、具体的なイメージと抽象的なイメージを往

還させながら、また、協同制作では他者とコミュニケーションを行いながら制作することとなった。保育および幼児教育の場においては、静寂の中、一人で完成度の高い造形を行うこともあろうかと思われるが、多くの場合は、子どもと言葉を交わしあいながら、一緒に作品作りを楽しむことを主眼とした活動となる。素材も、あるものを活用したり、利用したりすることとなろう。状況に応じて、多様な表現力を発揮できるよう、様々な経験を重ね、技量とともに自信をつけることが有用であると思われる。

加えて、本実践での鑑賞活動により、魅力的な表現のための要素として、画面上での形のバランスや形の要素、色のバランスや素材のもつ特質、イメージを喚起する図案の妙について意識することができたと考えられる。写実的な表現の課題だけでは、絵に対する苦手意識を生む可能性があると思われるが、適度に抽象化された作品を作ることは、表現の要素に改めて着目するきっかけともなろう。我が国の文化においても、適度な「間」が伝える空間の優美さは洗練されたデザインに通じるものである。しかし、だからと言って、デッサンのより専門的な学習を無しにしてはならないと筆者は考える。

社会のニーズに対応し、より創意に満ちた作品を作り、子どもの作品作りを支えていく保育士、教諭となるため、より専門的な実技能力の伸長を図り、幅広く鑑賞活動や制作活動を行う必要があろう。

3-2 今後の課題

園で見かけられる壁面構成は、子ども向けのものであり、ともすると多文化が入り混じった、芸術とはほど遠いものとして認知されるのではないだろうか。たしかに、我が国に誇れる芸術ではないかもしれない。しかし、鏡味治也は、2009年にアメリカのクリフォード・ギアツが発表した「多様性の効用」の論文を引用し次のように述べている。

「自文化の尊重には自信や誇りの拠り所というプラスの側面もあるが、それが高じると自文化への引きこもり状態が到来し、他文化に対する関心や理解が低下することを懸念する。そして『なじみのない心性の動きに想像的に分け入っていくこと（そして異質な心性が自分のなかに入ってくるのを許すこと）』こそが、多様な文化が存在する現代社会を生きるうえで欠かせない態度だと主

張する⁶⁾」

そもそも美術は、言葉を越えた相互理解すなわち「感動」を媒介に人々に支えられているものであると捉えるなら、多様な価値観を受け入れ、理解する土壌を培っていくべきであろう。また、鏡味は、「多文化、多民族の混在が世界中で常態となった今日、文化の差異を認め尊重しつつ対等の立場で対話し共存していくためにとるべき道のひとつ」と述べ、「積極的に支持していくべきもの」と述べている⁷⁾。ますます国際化する我が国の現状を踏まえ、独自の伝統を重んじつつ諸外国の文化を理解し、造形活動に取り入れていくことは、生涯に亘って美術を愛好する礎ともなろう。そのためには、現行の小学校学習指導要領にもふれられているように、目的に応じたコミュニケーション能力を培い、他者理解、自己開示、といった過程を通し、イメージを共有する楽しさを造形の学習を通して学ぶことが、大学生においても有意義であることが改めて確認できたと思われる。

加えて、四季の息吹を感じ取る取り組みと、これまで我が国および諸外国で行われてきた、または行われている年中行事についての知識や体験を深め、付随する表現・文化について、より理解していくことが、豊かな表現への顕現に繋がるものであると考えられる。なお、この度の実践では、木内菜保子氏の実践例を参考に造形に対する苦手意識の克服を主眼として、また、廃材利用を視野にいった簡易な表現を糸口として取り組まれたものであるが、今後の応用的な課題として、版画表現や刺繍などによる計画的な表現や、ドリップングや草木染めなどの要素を効果的に取り入れることを視野に入れた学習プログラムを組むことが考えられる。さらに、ロゴデザインやキャラクターの作成、色感、造形要素についての学習へとつなげていくことが期待できる。また、実際に子どもとのコミュニケーションを通して実践を行っていくことによって、より確かな学習となっていくものであると考えられる。

[注]

1. ローエンフェルド『美術による人間形成』竹内清・堀内敏・武井勝雄 訳、黎明書房、1976、p. 321。
2. 上浦千津子「生涯学習社会を展望した美術学習」『兵

庫教育大学連合大学院博士論文』2006、p. 70。

3. 金子賢治「近代陶芸家くらべ」『日本経済新聞』2013、9月5日夕刊。
4. 秋山光和『世界美術辞典』新潮社、1985、p. 180。
5. 『幼稚園教育要領・保育所保育指針に準じた指導計画 月刊 保育とカリキュラム』ひかりのくに、2008、10月号。
6. 鏡味治也『キーコンセプト 文化』世界思想社、2010、p. 130-131。
7. 前掲。

